

**目的** 共同庭園は、集合住宅の増加や戸建住宅敷地の狭小化により、公共空間を利用して設置されてきている。この空間は、広く市民に開かれた場所ではなく、その地区に居住する特定の人々の空間であり、公と私の間ともいえる空間である。また、良好な住環境や近隣の交流を意図して計画されている。この、共同空間が、有効に活用されるための指針を得ることが目的である。

**方法** 対象は、奈良県のニュータウンにある二つの園芸クラブである。一つは、まちの中心地にある河川敷に花壇設置したもの。一つは戸建住宅地の児童公園を利用したものである。調査は、現状観察と、維持・管理・運営方法を中心にしたヒアリング調査を行った。調査時期は、1996年9月、1997年9～10月である。

**結果** 花壇設置の目的は地域を美しくすることと、地域の人々の交流の機会をもつためである。現状は、共に、美しく良好な景観を呈している。クラブの状況は、一つは、会員数40名で30-60歳が中心、約500㎡の花壇と植木鉢やプランター100個に、年間約100種の花を咲かせている。もう一つは、会員数30名、年齢層は60-80歳が中心、約50㎡の花壇に年間約10種の花を育てている。活動状況について、大きな相違がある。ひとつは、自分達の好きな花を、美しく咲かせたいと意欲の高いもの、一つは、集まることが楽しみで、自分のできるだけのことをするものである。管理運営には、費用や時間負担の問題とともに、中心となる人物の存在と居住者の意識の高揚がある。居住者の意識や連帯感をいかに形成するかが、共同庭園の計画において重要である。